

水中の小さな生き物は、どうやってふえるの



1つのものが2つに割れたり、2つが合体してから数個に割れたりなど、さまざまなふえ方をするよ。

水中の小さな生き物も、植物と動物に分けられる

水中には、いろいろな生き物がたくさんいますが、ここでいう小さな生き物とは、けんび鏡でやっと見えるぐらいの大きさの、プランクトンとよばれる生き物のこととして説明します。

池やぬまの底にしずんでいる落ち葉や、水草、どろなどをとってきて少量の水でゆすぎ、その水をスポイトでとって、けんび鏡でいろいろ観察してみましょう。

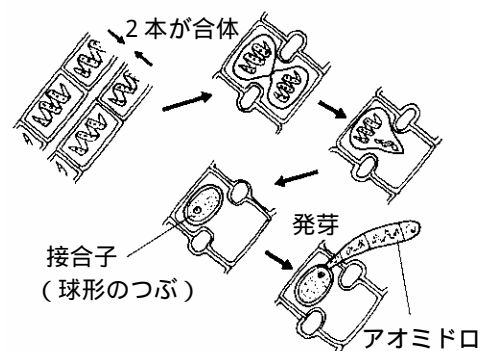
30倍以上にして見ると、緑色をした動かないプランクトン（植物性プランクトンしょくぶつせいという）と、よく動き、緑色をしていないプランクトン（動物性プランクトン）の2つに分けられることがわかります。

2つがくっついて（合体）1つになったり、1つが割れて2つになる

植物性プランクトンのアオミドロは、2本がくっついて中身（細ぼう）が合体し、それぞれが球形のつぶになり、どろの中でねむります。やがて、1つの細ぼうから1本ずつ芽を出し、たくさんの新しいアオミドロがのびてきます。

動物性プランクトンのゾウリムシは、体が2つに割れて2ひきになり、どんどんふえていきます。生きにくくなると、2ひきが合体して、また2つに分かれます。

ミジンコは、ふつうメスだけが生まれて、たまごが体内にできます。たまごは、体内で子ミジンコになってから生まれてきます。寒くなるなど、生きにくくなるとオスが生まれ、メスは受精卵じゆせいらんを産み、親は死んでも、たまごが生きのびます。



アオミドロのふえ方